

公 民

1 公民科の教育課程の編成

(1) 基本的な考え方

公民科の3科目において、その科目編成と必修科目については現行と同様であり、「現代社会」又は「倫理」・「政治・経済」を、すべての生徒に履修させることとしている。なお、「現代社会」の標準単位数は4単位から2単位に縮減された。

このような科目編成のもとで、公民科全体として、課題を設定し追究する学習を重視し、各科目でそれぞれの特質に応じた諸課題を選択的に取り上げて考察し、社会的事象に対する客観的で公正な見方や考え方を深めることができるようにするとともに、現代社会の諸課題と人間としての在り方生き方について考える力を一層養うことができるように、各科目の内容構成が工夫されている。

(2) 配慮すべき事項

3科目の履修順序は決められていないことから、各科目の特質に留意し、適切な教育課程の編成・実施に努めること。

ア 多様な履修形態を検討し、各学校の創意を生かした教育課程の編成に努めること。

イ 今回の改訂で改善された点や、一層重視された点を生かした教育課程の編成に努めること。

ウ 中学校の社会科の学習の成果や、他の教科・科目、総合的な学習の時間、特別活動などとの関連を図ること。

(3) 特色ある教育課程の編成

今回の改訂の趣旨を踏まえ、生徒の興味・関心、進路希望等に応じ、より深く高度に学んだり、より幅広く学んだりする仕組みを整え、それぞれの能力を十分伸ばすことのできる、特色ある教育課程の編成が求められている。

そのために、公民科の3科目における多様な履修形態を検討し、選択の幅を広げたり、学校設定教科・科目の履修や学校間連携、学校外の学修などの教育活動との関連を図るなど、弾力的で、特色ある教育課程の編成を検討することが大切である。

例えば、公民科に関連する学校設定教科・科目としては、平成13年4月現在、教科「公民」における学校設定科目「時事問題研究」、学校設定教科「産業社会」における当該教科に関する科目「産業社会と人間」、同じく「国際理解」における「国際教養」、「国際ボランティア基礎」、同じく「総合」における「課題研究」などがある。

その際、今回の改訂における各科目の改善点や重視されている点を十分考慮し、他の教育活動との関連を図ることが必要である。

2 指導計画と内容の取扱い

(1) 指導計画作成上の留意点

ア 現代社会

(ア) 「(1) 現代に生きる私たちの課題」は「現代社会」の導入として位置付けられ、

現代の社会と自己とのかかわりに着目して、課題追究させるように構成されている。

- (イ) 「(2) 現代の社会と人間としての在り方生き方」には4つの中項目が置かれており、それぞれ社会、政治、経済、国際関係を切り口として、生徒自身が様々な立場に立って、現代の社会を多様な角度から理解し、社会の形成者として在り方生き方を考えることができるように構成されている。

イ 倫理

- (ア) 「(1) 青年期の課題と人間としての在り方生き方」は、先哲の思想などを観点を明確にして取り上げ、自己とのかかわりを意識した学習を展開する、導入的性格を持たせている。
- (イ) 「(2) 現代と倫理」は、現代の倫理的課題を大局的にとらえ、現代に生きる人間として何が当面する基本的課題であるかを考え、課題を主体的に選択し、追究させるように構成されている。

ウ 政治・経済

- (ア) 大項目「(1) 現代の政治」及び「(2) 現代の経済」が、「(3) 現代社会の諸課題」で課題追究するための基礎となる政治や経済の基本的な概念や理論を探究的に学習する項目として構成されている。
- (イ) 大項目(3)は「政治・経済」のまとめとして位置付けられて、「ア 現代日本の政治や経済の諸課題」「イ 国際社会の政治や経済の諸課題」の2つの中項目で、それぞれいくつかの課題を選択するように構成されている。

(2) 内容の取扱い

ア 現代社会

- (ア) 大項目(1)においては、科目の導入としての位置付けに留意し、学習の動機付けや学び方の習得に重点を置いた工夫を行い、「地球環境問題」など5つのテーマのうち2つ程度選択して課題追究させる。
- (イ) 大項目(2)においては、4つの中項目のねらいを踏まえ、「問題の本質は何か」「何をすべきか」「何ができるか」を追究し、現代社会についての理解とともに、人間としての在り方生き方を考えさせる。

イ 倫理

- (ア) 大項目(1)、(2)を通して、学習内容を自己とのかかわりの中でとらえ、自らの人格形成への実践意欲を高め、豊かな自己形成について考えさせる。
- (イ) 大項目(2)においては、一つ一つの学習内容が、生きる主体としての生徒の具体的な自己の課題と結びつくよう、課題追究を通して、主体的な自覚を深めさせる。

ウ 政治・経済

- (ア) 大項目(1)、(2)で、政治的事象や経済事象をとらえるための基本的な概念や理論について学ばせるとともに民主政治の本質や国際経済、現代経済の特質などの探究を通して、政治や経済についての見方や考え方を身に付けさせる。
- (イ) 大項目(3)で、選択したそれぞれの課題の本質や問題点をとらえさせ、その課題に関する代表的な考え方や対照的な考え方を対比させながら、望ましい解決の在り方について考察させる。

3 指導計画の作成

科目「現代社会」の指導計画（例）

学期	週	回数	単元(項目)	指導項目	指導のねらい	予定時数	留意事項
1	4	3	(1) 現代に生きる私たちの課題	<ul style="list-style-type: none"> 「現代社会」のガイダンス 課題追究のモデリング〔課題研究Ⅰ〕 生徒各自の課題設定 課題追究学習 課題追究の発表 教師による講評〔課題研究Ⅱ〕 生徒各自の課題設定 課題追究学習 課題追究の発表 教師による講評 	<ul style="list-style-type: none"> 現代社会の基本的な問題に対する判断力を培うとともに、人間としての在り方生き方について、自ら考える力を養う。 自ら課題を設定し追究する学習を通じ、学び方の習得を図る。 各種資料の使用、社会調査、コンピュータの利用などを通じて、社会事象を多面的・多角的に考察することにより、客観的で公正なもの見方や考え方を適切に表現する能力を養う。 レポートのまとめ方、プレゼンテーションの工夫、討議の方法等について適切に行う能力を養う。 	22	<ul style="list-style-type: none"> 「現代社会」の導入であることに留意し、高度な内容に深入りすることは避け、学習の動機付けや学び方の習得に重点を置いた工夫を行うこと。 現代社会の諸問題については地球環境問題、資源・エネルギー問題、科学技術の発達と生命の問題、日常生活と宗教や芸術とのかかわり、豊かな生活と福祉社会などの課題から自己とのかかわりに着目して2つ程度選択すること。 小学校や中学校での学習積み重ねの上に行われる学習であることを踏まえ、教師がモデリングをしたり、課題研究の例を見せるなど工夫をすること。 課題選択にあたっては、学校選択、学級選択、グループ選択等学校の実態に合わせて工夫を行うこと。 発表については、追究の過程や思考過程を論理的に表明できるよう工夫をすること。 発表やレポート・報告書など一つのまとまったものに仕上げ、生徒に成就感をもたせる工夫をすること。
	5	3					
2	8	2	(2) 現代の社会と人間としての在り方 ア 現代の社会生活と青年	<ul style="list-style-type: none"> 4つの中項目より構成される。 現代の社会生活については大衆化、少子高齢化、高度情報化、国際化などから2つ程度選択 社会生活の変化 生涯における青年期の意義と自己形成 自己実現と職業生活、社会参加 	<ul style="list-style-type: none"> 現代社会について多様な角度から理解させるとともに、自己とのかかわりに着目して考えさせる。 現代社会の特質と社会の変化について理解させ、青年期の意義と自己形成について考える能力を養う。 自己表現と職業生活、社会参加等に触れながら、現代社会における青年の生き方について自覚を深めさせる。 生涯を通して学び続けることが人間生活を豊かにし、よりよく生きることにつながることを、自己に対する理解を深めさせ、変化する社会の中でいかに自己実現を図るかを考えさせ、よりよく生きること追究させる。 	6	<ul style="list-style-type: none"> 4つの中項目で、生徒自身が多様な立場に立って、社会の形成者として在り方生き方考えさせる工夫をすること。 現代の社会生活については、例示されている4項目から生徒の実態等にに応じて、2つ程度選択して、主体的な学習ができるよう工夫を行うこと。 生涯にわたる学習の意義についても考えさせること。 職業生活、社会参加などについては男女が平等な構成員であることに留意すること。 現代社会における青年の生き方については日本の生活文化や伝統とのかかわりにについても考えさせること。
	9	4	イ 現代の経済社会と経済活動の在り方	<ul style="list-style-type: none"> 技術革新と産業構造の変化 企業の働き 公的部門の役割と租税 金融機関の働き 雇用と労働問題 公害の防止と環境課題 個人と企業の経済活動における社会的責任 	<ul style="list-style-type: none"> 現代の経済社会の特徴を理解させ、それらの理解の上で、経済主体として個人や企業の社会的責任について考える能力を養う。 	9	<ul style="list-style-type: none"> 経済面における国際的な相互依存関係がより一層緊密化している状況に注目させ、経済活動が様々な要因によって成り立っていることに気付かせる工夫を行うこと。 生徒が生産者、消費者、納税者、生活者などとして経済社会がかかわっていることを理解させるため、身近で具体的な事例を取り上げるなど工夫すること。
3	10	4	ウ 現代の民主政治の倫理	<ul style="list-style-type: none"> 基本的人権の保障と支法の配 国民主権と議会制民主主義 平和主義と我が国の安全 世論形成と政治参加の意義 民主政治における個人と国家 生命の尊重 自由・権利と責任・義務 人間の尊重と平等 法と規範 民主社会の倫理 	<ul style="list-style-type: none"> 民主政治の基本原則に基づき、日本国憲法の基本原則と政治機構、民主政治における世論形成と政治参加の意義についての理解を図る。 民主政治の前提となる個人の在り方について考察し、生命の尊重、自由・権利と責任・義務、人間の尊重と平等、法と規範などについて取り上げることにより、民主社会に主体的に生きる人間の在り方生き方について考えさせる。 	12	<ul style="list-style-type: none"> 地方自治にも触れながら政治と生活との関連について認識を深めさせるなど、身近な生活にかかわる事例を通して理解を深めさせること。 現実の具体的な事例を取り上げて考えさせるなど、生徒の実態に合わせて工夫を行うこと。 民主社会における倫理については、個人と個人、個人と社会との関係に着目して考えさせること。
	11	4	エ 国際社会の動向と日本の果たすべき役割	<ul style="list-style-type: none"> 世界の主な国の政治や経済の動向 人権、国家主権、領土の関する国際法の意義 人権・民族問題 核兵器と軍縮問題 我が国の安全保障と防衛 資本主義経済と社会主義経済の変容 貿易の拡大と経済摩擦 南北問題 国際平和や国際協力の必要性及び国際組織の役割 国際社会における日本の果たすべき役割及び日本人の生き方 	<ul style="list-style-type: none"> 世界の主な国の政治や経済の動向を概観し、国際平和や国際経済に関する諸問題についての理解を図る。 国際平和や国際協力を推進する上で国際組織の果たす役割が大きいことについて認識させる。 国際社会における日本の役割及び日本人の生き方について考える能力を養う。 	12	<ul style="list-style-type: none"> 中学校社会科公民分野では国際経済と国際政治の部分の学習が厳選されていることに留意すること。 制度や機構に関する細かな事柄の学習にならないことに留意し、具体的な事例を取り上げながら、国際社会の動向や諸問題について理解させる工夫を行うこと。 これからの国際社会における日本の政治的、経済的、社会的な責務と役割について、国際平和を推進し、人類の福祉の向上を目指すという観点から、自分たち一人一人の課題をして主体的に考えさせるよう工夫をすること。
3	12	3					
	1	2	<まとめ> 「現代社会」の学習を振り返って	<ul style="list-style-type: none"> 1年間の学習の成果を生徒一人一人がレポートにし発表 	<ul style="list-style-type: none"> 1年間の学習で学んだことや興味・関心が深まったことを主体的に考察するとともに、倫理・社会・文化・政治・経済など様々な観点から現代の社会をとらえ、公正に判断する態度を養う。 	4	<ul style="list-style-type: none"> 現代の社会の諸事象を多面的・多角的に考察することを通して、考察した過程や結果について適切に表現し発表する能力と態度を育てよう工夫すること。

(配当時間 65時間+定期考査5時間=70時間)

科目「倫理」の指導計画(例)

学期	月数	単元(項目)	指導項目	指導のねらい	予定時数	留意事項
1	4 3	(1) 青年期の課題と人間としての在り方 ア 青年期の課題と自己形成	・自らの体験や悩みを振り返ろう ・青年期の意義と課題 ・豊かな自己形成に向けて ・自己の生き方について考える	・生徒が抱える課題とのかかわりにおいて、青年期の意義に気付かせる。 ・適切な手がかりを活用して、それらの課題の解決を図り、主体的に生きていくための人生観・世界観ないし価値観の基礎を培うことができるようにする。 ・自らの生き方や行動を選択して決していくことのできる価値観を形成することの意義と、これにかかわる生きる主体としての自己の課題を自覚させる。	8	・他の教科・科目や特別活動(特にホームルーム活動)との関連に配慮して、生徒の実態に即した指導を工夫する。 ・自らの体験や悩みを率直に語るなど、自己を表現することができるように指導する。 ・各種の統計や意識調査の結果や、対話や討議、作文や調査などを取り上げて、指導することも配慮する。
	5 3	イ 人間としての自覚	・人生における哲学、宗教、芸術の持つ意義 ・人間の存在や価値にかかわる課題	・哲学や宗教や芸術が何を問い、どのような答えを見い出してきたかを、生徒自身の課題と重ね合わせて考えさせ、これらを手がかりにして思索を深めさせる。 ・生徒の生き方にかかわる課題を、人間の存在と価値の両側面から考えさせる。	15	・先哲の思想、芸術家とその作品を、生徒の思索の手がかりになるように、観点を明確にして取り上げることが、大切である。
	6 4	ウ 国際社会に生きる日本人としての自覚	・日本人に見られる人間観、自然観、宗教観などの特質 ・我が国の風土や伝統 ・外来思想の受容 ・国際社会に生きる主体性のある日本人としての在り方生き方	・日本人が人間をどのようにとらえ、自然や宗教とのかかわりをどのように考えていたかを、自己とのかかわりにおいて理解させる。 ・日本人の心情やものの見方・考え方や風土との深いかかわりをとらえさせる。 ・自己形成の課題として、日本人に見られるものの見方・考え方の特質を知り、国際社会に生きる主体性のある日本人としての在り方生き方について思索を深めさせる。	10	・日本の思想史や文化史について知識として学ばせるのではなく、古来の日本人の考え方や代表的な日本の先哲の思想を手がかりとして、自己の課題として学習させるよう、配慮する。 ・指導上必要があれば、例えば芸術・美についての考え方などを適宜取り上げることも考えられる。 ・偏狭で排他的な自国賛美に陥ることのないように配慮する。
2	8 2	(2) 現代と倫理 ア 現代の特質と倫理的課題	・現代の倫理的課題 ・今日に生きる人間の課題	・人間としての在り方生き方に直接かかわり深い倫理的課題について取り上げ、今日の我々がどのような課題に直面しているかを全体として概観させ、イ、ウで倫理的課題について追究するための問題意識を持たせる。	6	・倫理的課題は、「科学技術の進展」「高度情報化」「少子高齢化」「国際化」「家族・地域社会の在り方の変化」「資源の環境問題」などにかかわる現代の諸課題から取り上げるが、追究に深入りしたり、これらの課題を客観的にとらえて細かな事項に深入りしたりすることのないように留意する。 ・課題を概観する際には、課題の光と影、問題点と解決策というように、多様な角度から概観するよう留意する。
	9 4	イ 現代に生きる人間の倫理	・人間への尊敬と生命への畏敬 ・自然や科学技術と人間とのかかわり ・民主社会における人間の在り方 ・社会参加と奉仕 ・自己実現と幸福 ・他者と共に生きる自己の生き方にかかわる課題	・現代に生きる人間が直面する諸課題を倫理的な視点からとらえさせ、他者と共に生きる自己の生き方にかかわる課題として主体的に思索を深めさせる。 ・先哲な思想を手がかりにしたり、科学的な見方や考え方について思索を深めたり、価値観の尊重と社会の成り立ちについて考えさせたり、自由、権利、義務、責任、社会参加などについて幅広い観点から検討を深めたり、自己実現と社会生活の観点から思索させたりしながら、倫理的な見方や考え方を身に付けさせ、考えを深めさせる。	12	・ウで課題追究を行うための、倫理的な見方や考え方を身に付けさせることに留意する。 ・この項目の内容については、生徒全員に学ばせ、学習内容が単に一定の見方や考え方を学びとることと終わることのないよう、生徒自身の生きる課題として学ばせることに留意する。
	10 4	ウ 現代の諸課題と倫理	・倫理的課題の追究 A: 生命又は環境のいづれか B: 家族・地域社会又は情報社会のいづれか C: 世界の様々な文化の理解又は人類の福祉のいづれか	・それぞれの課題追究においては、諸事象の関係付けや分析・総合などの思考活動を促し、課題についての理解の深化を図ることによって、自ら学び、自ら考え、判断する力を身に付けさせ、事象を多角的、総合的にとらえさせる。 ・ねらいを明確にして課題の選択を行う。 (例示) ・ A群の課題は学校選択として、倫理を学習する生徒全員が行う。 ・ B群は生徒個々が課題を見つけ、課題追究学習を行う。 ・ C群は、学校の特色に応じ、例えば海外の姉妹校があれば、世界の文化理解を選択したり、ボランティア活動を実践している学校では人類の福祉を選択するなどして、自己とのかかわりを視点として、生徒個々に課題追究学習を行う。	14	・Aにおいては、「自然と人間とのかかわり」を視点として、Bにおいては、「社会生活と自己とのかかわり」を視点として、Cにおいては、「国際社会と自己とのかかわり」を視点として、選択して学ばせる。 ・選択の在り方は、学校や学級単位、生徒個々の選択など、多様な方法を検討し、学校や生徒の実態に応じて工夫することが大切である。 ・倫理の学習全体を通して、作業的、体験的学習や、視聴覚教材やコンピュータの活用、調査研究、発表学習など、可能な限り多様な学習方法を取り入れ、学習効果を高めることに留意する。
	11 4					
12 3						
3	1 2					
	2 2					
	3 2					

(配当時間 65時間+定期考査5時間=70時間)

科目「政治・経済」の指導計画（例）

学期	月	週数	単元(項目)	指導項目	指導のねらい	予定時数	留意事項					
1	4	3	(1) 現代の政治 ア 民主政治の基本 原理と日本国憲法	<ul style="list-style-type: none"> ・ガイダンス ・政治と法の機能 ・人権保障と法の支配 ・権利と義務の関係 ・議会制民主主義 ・望ましい政治と在り方及び主権者としての参政の在り方 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本国憲法の基本的性格や政治機構を取り上げながら民主政治の基本原則について理解させ、政治についての基本的な見方や考え方を身に付けさせる。 ・現代の民主政治の在り方と国民参政の意義について広い視野から考察させ、主権者としての参政の在り方について考えさせる。 	17	<ul style="list-style-type: none"> ・主権者である国民の政治的な意思決定や政治行動の現代的な特質を取り上げることによって、政治への関心を高め、主権者としての主体的な参政の在り方へと考察が深まるように工夫することが大切である。 ・政治的な事象をとらえる一つの理論を絶対的なものとして取り扱うことのないように留意し、客観的な事実を照らして理論を吟味していく姿勢を育てることが必要である。 					
		4						イ 現代の国際政治	<ul style="list-style-type: none"> ・国際政治の動向 ・人権、国家主権、領土などに関する国際法の意義 ・国際連合をはじめとする国際機構の役割・我が国の防衛を含む安全保障の問題 ・国際平和と人類の福祉に寄与する日本の役割 	<ul style="list-style-type: none"> ・現代の国際政治にかかわる基本的な概念や理論について学習させ、基本的な見方や考え方を身に付けさせる。 ・現代の国際政治の特質や国際紛争の諸要因について探究させ、国際社会における日本の役割については広い視野から考察させる。 	10	<ul style="list-style-type: none"> ・(1)アで学習した成果については十分生かすことが必要である。 ・国際政治には、国内政治とは異なる特質があることに留意する。 ・日本の役割や国際社会の在り方について考えようとする意欲を高めるよう工夫する。
		5										
6	イ 国民経済と国際経済	<ul style="list-style-type: none"> ・貿易の意義と国際収支の仕組み ・国際協調の必要性や国際経済機関の役割 ・国際経済における日本の役割 	<ul style="list-style-type: none"> ・国際経済に関する基本的な概念と理論を理解させ、国際経済についての基本的な見方や考え方を身に付けさせる。 ・近年の国際経済の特質について探究させ、国際経済の安定と成長に果たすべき日本の役割について考察させ、良識ある公民としての必要な能力と態度を育てる。 	7	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校社会科公民的分野から、国際経済に関する事項が厳選された点に配慮し、基本的内容をより重視した指導が求められる。 ・身近で具体的な事例を取り上げることによって、国際経済についての見方や考え方の基本となる概念や理論の理解を深めさせるよう工夫する必要がある。 							
7						(3) 現代社会の諸課題 ア 現代日本の政治や経済の諸問題	<ul style="list-style-type: none"> ・大きな政府と小さな政府 ・少子高齢化社会と社会保障 ・住民生活と地方自治 ・情報化の進展と市民生活 ・労使関係と労働市場 ・産業構造の変化と中小企業 ・消費者問題と消費者保護 ・公害防止と環境保全 ・農業と食料問題 	<ul style="list-style-type: none"> ・現代日本の政治や経済の諸問題について、政治と経済との関連に留意しながら多面的・多角的に追究させ、望ましい解決の在り方について主体的に考察させ、公正な判断力を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を養う。 	10	<ul style="list-style-type: none"> ・この項目が「政治・経済」のまとめとしての性格をもつものであることに留意し、現実社会の諸課題について政治と経済とを関連させながら広い視野から追究させることが大切である。 ・大項目(1)、(2)の学習で身に付けた見方や考え方を現実社会の諸問題に当てはめ、事実と付き合わせながら見方や考え方を吟味し、さらに深化・発展させることができるよう、生徒の主体的な課題選択と課題の追究を促すことが必要である。 ・諸課題を網羅的に取り扱うことは避け、地域や学校、生徒の実態等に応じて、それぞれ選択して追究させるとともに、事実に基づいて多様な角度から考察し、理論と現実の相互関連を理解させることが肝要である。 ・一つの理論の上で単に現実を批判するだけに終わったり、現実を肯定するだけに終わったりすることのないように留意し、現実に基づく理論を批判的に吟味していく姿勢をもつことが大切である。 ・個々に結論を導かせ結論を得た過程と結論そのものを適切に表現する能力と態度を育てることに留意する。 		
8	イ 国際社会の政治や経済の諸課題	<ul style="list-style-type: none"> ・地球環境問題 ・核兵器と軍縮 ・国際経済格差の是正と国際協力 ・経済摩擦と外交 ・人種・民族問題 ・国際社会における日本の立場と役割 	<ul style="list-style-type: none"> ・国際社会の政治や経済の諸問題について、政治と経済との関連に留意しながら多面的・多角的に追究させ望ましい解決の在り方について主体的に考察させ、公正な判断力を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を養う。 	8								
9					イ 国際社会の政治や経済の諸課題						<ul style="list-style-type: none"> ・地球環境問題 ・核兵器と軍縮 ・国際経済格差の是正と国際協力 ・経済摩擦と外交 ・人種・民族問題 ・国際社会における日本の立場と役割 	<ul style="list-style-type: none"> ・国際社会の政治や経済の諸問題について、政治と経済との関連に留意しながら多面的・多角的に追究させ望ましい解決の在り方について主体的に考察させ、公正な判断力を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を養う。
10	イ 国際社会の政治や経済の諸課題	<ul style="list-style-type: none"> ・地球環境問題 ・核兵器と軍縮 ・国際経済格差の是正と国際協力 ・経済摩擦と外交 ・人種・民族問題 ・国際社会における日本の立場と役割 	<ul style="list-style-type: none"> ・国際社会の政治や経済の諸問題について、政治と経済との関連に留意しながら多面的・多角的に追究させ望ましい解決の在り方について主体的に考察させ、公正な判断力を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を養う。 	8								
11					イ 国際社会の政治や経済の諸課題	<ul style="list-style-type: none"> ・地球環境問題 ・核兵器と軍縮 ・国際経済格差の是正と国際協力 ・経済摩擦と外交 ・人種・民族問題 ・国際社会における日本の立場と役割 	<ul style="list-style-type: none"> ・国際社会の政治や経済の諸問題について、政治と経済との関連に留意しながら多面的・多角的に追究させ望ましい解決の在り方について主体的に考察させ、公正な判断力を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を養う。 	8				
12	イ 国際社会の政治や経済の諸課題	<ul style="list-style-type: none"> ・地球環境問題 ・核兵器と軍縮 ・国際経済格差の是正と国際協力 ・経済摩擦と外交 ・人種・民族問題 ・国際社会における日本の立場と役割 	<ul style="list-style-type: none"> ・国際社会の政治や経済の諸問題について、政治と経済との関連に留意しながら多面的・多角的に追究させ望ましい解決の在り方について主体的に考察させ、公正な判断力を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を養う。 	8								
2					1	2	イ 国際社会の政治や経済の諸課題	<ul style="list-style-type: none"> ・地球環境問題 ・核兵器と軍縮 ・国際経済格差の是正と国際協力 ・経済摩擦と外交 ・人種・民族問題 ・国際社会における日本の立場と役割 	<ul style="list-style-type: none"> ・国際社会の政治や経済の諸問題について、政治と経済との関連に留意しながら多面的・多角的に追究させ望ましい解決の在り方について主体的に考察させ、公正な判断力を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を養う。 	8		
3	1	2	イ 国際社会の政治や経済の諸課題	<ul style="list-style-type: none"> ・地球環境問題 ・核兵器と軍縮 ・国際経済格差の是正と国際協力 ・経済摩擦と外交 ・人種・民族問題 ・国際社会における日本の立場と役割 							<ul style="list-style-type: none"> ・国際社会の政治や経済の諸問題について、政治と経済との関連に留意しながら多面的・多角的に追究させ望ましい解決の在り方について主体的に考察させ、公正な判断力を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を養う。 	8

(配当時間 65時間+定期考査5時間=70時間)

4 質疑応答

問1 公民科と総合的な学習の時間の関連において、どのようなことに留意すればよいか。

総合的な学習の時間と公民科各科目のねらいや学習方法などの関連性に着目して、教育課程に位置付け、学習指導計画を立てることが大切である。以下に公民科と総合的な学習の時間に共通する題材として例示されている「環境」について例を示す。

<現代社会>

「水」を一つのテーマとして、環境問題についての課題追究学習をすすめる場合、まず「水」と自分たちの生活とのかかわりを主体的に考察することが大切である。その中で、経済活動を中心とした、私たちの様々な活動が「水」環境への負荷を増大させ、水質汚染や酸性雨などの諸問題を起こし、その結果、様々な地球環境への、そして私たちの生活への影響が出ることに着目させる。その際、現在の世代のみならず将来の世代のため「何をすべきか」「何ができるか」という視点から、各自が課題を見付け、課題解決を目指す主体的な課題追究学習を行うことが大切である。

<倫理>

「水」を一つのテーマとして、環境問題についての課題追究学習をすすめる場合、まず「水」と「生命」の関係や日本人の自然観について考察したりすることが、倫理的な見方考え方を身に付けさせる上で重要である。その上で、「水」を取り巻く現代の問題などから、諸事象の関係づけや分析・総合などの思考活動を促し、問題解決の方向について考えさせる。その際、「自然と人間とのかかわり」という視点から各自が課題を見付け、課題解決を目指す主体的な課題追究学習を行うことが大切である。

<政治・経済>

「水」を一つのテーマとして、環境問題についての課題追究学習をすすめる場合、まず、「水」と環境問題のかかわりについて理解させる。さらに、企業や国、地方公共団体などの積極的な取組などによって、一定の成果があがっているものの、現在も化学物質による汚染や人体への影響が懸念される等の状況を理解させる。その上で、「水」を取り巻く現代の諸問題について具体的な事例を調べさせ、その解決方法を考察させる。その際、「国民の健康で文化的な生活の確保」という視点から各自が課題を見付け、課題解決を目指す主体的な課題追究学習を行うことが大切である。

いずれの科目においても、以上のような取組は、新しい学習指導要領の柱の一つである「自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てる」ことに寄与できる活動となることに留意する必要がある。また、このことは、総合的な学習の時間のねらいと深い関係をもっており、公民科との有機的な連関を図ることができ、効果的であることから、相互補完的な内容として取り組むことについて、検討していくことが重要である。